



# 熊本大学大学院 教授システム学専攻 eLP認定への取り組み

熊本大学大学院 社会文化科学研究科  
教授システム学専攻

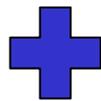


# 本専攻のカリキュラムとeLP資格



Kumamoto University

修士課程 修了→ベーシック・LD認定可  
(必修・選択必修科目のみで認定)



所定の選択科目の単位を取得  
↓  
MG、EX、CO、CC、SCの認定可

教育の質を組織的に保証

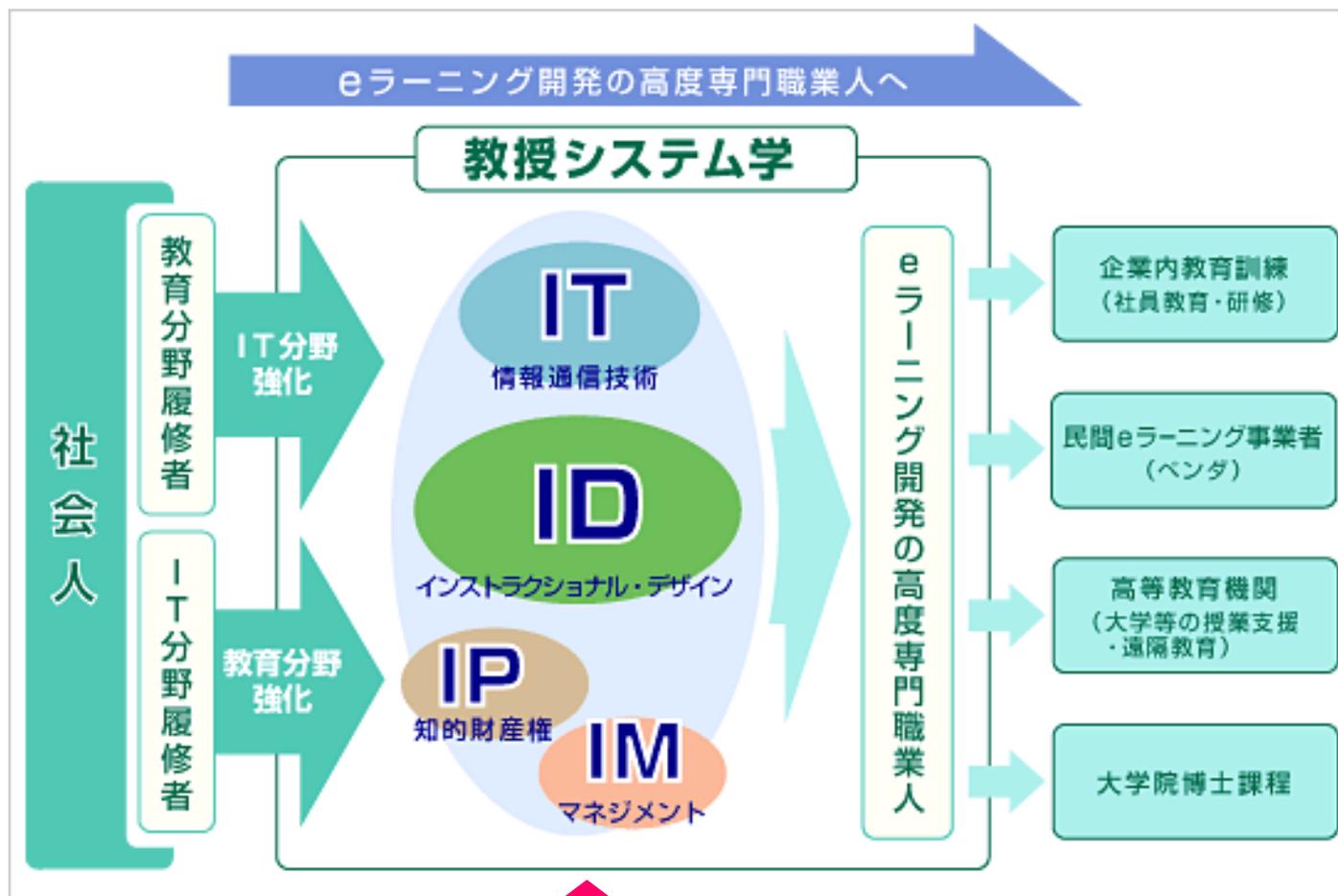


# 当専攻のカリキュラムとeLP



# そもそもeLPと親和性が高い本専攻

## 『4つのI』でeラーニングのプロフェッショナルを養成



**ID**

(Instructional Design)  
インストラクショナル  
・デザイン

**IT**

(Information Technology)  
情報通信技術

**IP**

(Intellectual Property)  
知的財産権

**IM**

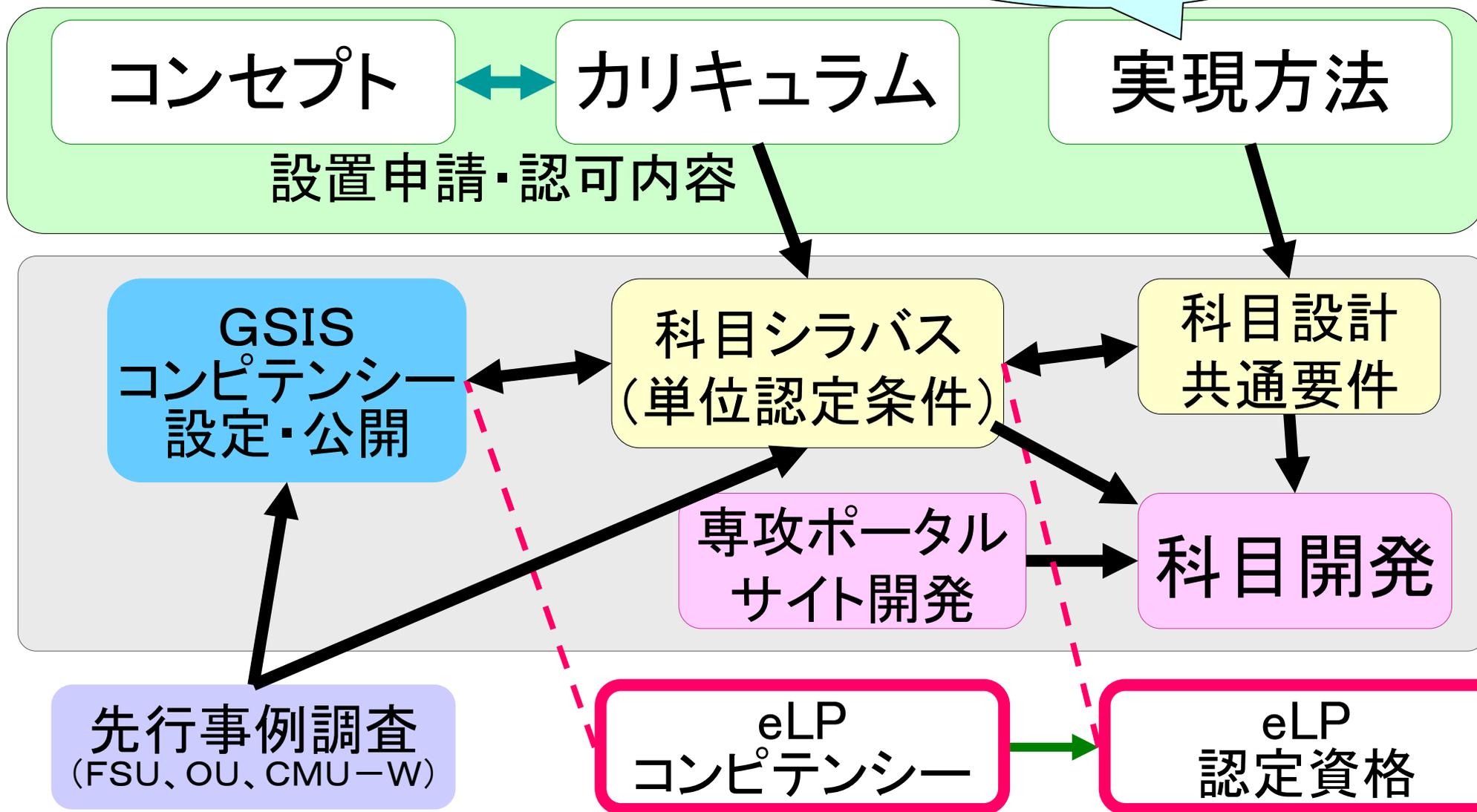
(Instructional Management)  
マネジメント

eLPで扱う領域そのもの



# eLPを意識したカリキュラム開発

半期15回の  
双方向指導



Analysis

Design

Development



# eLPと各科目のマッチング結果

			1	2	20	3	7	21	14	13	22	4	8	25	27	9	16	12	
			1・前	1・前	1・前	1・後	1・後	1・後	1・後	1・後	2・前	1・前	1・前	1・前	1・後	2・前	1・前/ 2・前	2・後	
			eラーニング概論	ID・I	ネットワーク上の知的財産権及び私権	ID・II	学習支援情報通信システム論	eラーニング実践演習Ⅰ	遠隔教育実践論	教育ビジネス経営論	eラーニング実践演習Ⅱ	基盤的教育論	基盤的情報処理論	情報リテラシーにおけるeラーニング	職業教育訓練におけるeラーニング	高度情報通信技術の教育利用	eラーニングコンサルティング論	コンテンツ標準化論	
			必修									選択必修		選択					
レベル	職種																		
CM		共通(ベーシック)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
MG		マネージャー	○		○	○	○	○	○	○	○				○				
EX		エキスパート			○	○	○	○	○	○	○								
CO		コンサルタント	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○	
LD		ラーニングデザイナー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
CC		コンテンツクリエイター			○	○	○	○	○	○	○					○			
SC		SCORM技術者			○	○	○	○	○	○	○		○		○				○

<各職種毎のコンピテンシーと科目の対応>



# 各職種認定に必要な科目

			1	2	20	3	7	21	14	13	22	4	8	25	27	9	16	12		
			1・前	1・前	1・前	1・後	1・後	1・後	1・後	1・後	2・前	1・前	1・前	1・前	1・後	2・前	1・前/2・前	2・後		
			eラーニング概論	ID・I	ネットワーク上の知的財産権及び	ID・II	学習支援情報通信システム論	eラーニング実践演習Ⅰ	遠隔教育実践論	教育ビジネス経営論	eラーニング実践演習Ⅱ	基盤的教育論	基盤的情報処理論	情報リテラシーにおけるeラーニング	職業教育訓練におけるeラーニング	高度情報通信技術の教育利用	eラーニングコンサルティンング論	コンテンツ標準化論		
必修・選択必修			必修									選択必修								
選択			選択									選択								
<各職種毎のコンピテンシーと科目の対応> レベル 職種																				
CM		共通(ベーシック)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
MG		マネージャー						○	○	○	○				○					
EX		エキスパート						○	○	○	○									
CO		コンサルタント						○	○	○	○						○			
LD		ラーニングデザイナー						○	○	○	○	○								
CC		コンテンツクリエイター						○	○	○	○					○				
SC		SCORM技術者						○	○	○	○				○				○	

必修科目・選択必修修得＝課程を修了すれば、あと少しの選択科目で認定



# 各職種認定に必要な科目

職種	認定に要する科目（＝認定条件）
ベーシック(CM)	必修科目＋選択必修科目
マネージャー(MG)	必修科目＋選択必修科目＋職業教育訓練におけるeラーニング(選択)
エキスパート(EX)	必修科目＋選択必修科目＋職業教育訓練におけるeラーニング(選択)
コンサルタント(CO)	必修科目＋選択必修科目＋eラーニングコンサルティング論(選択)
ラーニングデザイナー(LD)	必修科目＋選択必修科目
コンテンツクリエイター(CC)	必修科目＋選択必修科目＋高度情報通信技術の教育利用(選択)
SCORM技術者(SC)	必修科目＋選択必修科目 ＋情報リテラシーにおけるeラーニング＋コンテンツ標準化論(選択)

ベーシックとLDは必修科目のみでカバー 他は＋1～2つの選択科目



# コンピテンシー充足の例



# MG5－2コンピテンシー

「eラーニング戦略の弱点を検出し、適宜修正できる」

- 充足に必要な科目

- eラーニング概論(必修)

- 「eラーニングファンダメンタル」

- 教育ビジネス経営論(必修)

- 教育ビジネスを教育部門・教育事業者・大学の3視座から

- 職業人教育訓練におけるeラーニング(選択)

- MGの認定を受けるために必須の科目と位置づけ



# eラーニング概論

## 【課題3】 eラーニング事例分析書（40点）

- 任意のeラーニング事例を1つ取り上げ、本科目で扱った次の事項（分析の視点）を応用して当該事例を分析し、改善点を複数の視点について提案せよ。取り上げるeラーニング事例の規模や目的、対象者層などは一切問わない。（以下略）
- [分析の視点]
  1. 対象者・目的・利用環境
  2. システム設計（構成要素とその妥当性など）
  3. コース設計（構造・系列化と学習制御についてなど）
  4. 学習支援設計
  5. 動機づけ設計
  6. 自己管理学習支援
  7. その他の視点（その他、分析の視点として適切だと思われる観点について：任意）

MG5-2「eラーニング戦略の弱点を検出し、適宜修正できる」

# 教育ビジネス経営論



Kumamoto University

## [課題3]

- 下記の中よりテーマを一つ選びレポートを提出してください。(A4 2枚以内)
  1. あなたが考えるHRMとHCMの違いについて述べてください。
  2. あなたの会社のHCMはどのようにしてゆくべきか、現状と比較して述べてください。
  3. HCMが行われていると思う会社を1社選び、なぜそのように考えるか述べてください。

MG5-2「eラーニング戦略の弱点を検出し、適宜修正できる」

# 職業人教育訓練におけるeラーニング

1. 事例を一つ選ぶ
    - ・自社の事例
    - ・eラーニング白書等から
  2. その事例について以下の点について整理してくる。
    - (1)現状の問題や課題
    - (2)その問題や課題に関する「ネクスト・ステップ」  
(どのような方策を講じるか)
  3. 発表・議論する
- <課題>
- A社のeラーニング活用事例の『Next Step』についての企画書を提出しなさい。

MG5-2「eラーニング戦略の弱点を検出し、適宜修正できる」

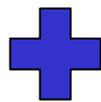


# 本専攻のカリキュラムとeLP資格



Kumamoto University

修士課程 修了→ベーシック・LDを認定  
(必修科目のみで認定)



所定の選択科目の単位を取得  
↓  
MG、EX、CO、CC、SCの認定

教育の質を組織的に保証



# 教育の質を組織的に保証

- 充実したスタッフによる理論と実践の融合
  - 理論を踏まえた**実習や演習で実践可能な力**を
  - 多彩な講師陣と産官学連携
- **出口(人材養成目的)からの質保証**
  - 人材需要に対応した**コンピテンシー**を定め、  
それに基づき教育内容・方法を構築
- 体系的カリキュラムを組織的に編成
  - カリキュラム全体と全科目をIDに基づいて開発
  - 専任教員全員によるシラバスの相互チェック

コンピテンシーの充足を組織的に保障



# 多彩な講師陣と産官学連携

## 産官学連携による多彩な講師陣



- 日本のID教育の先端を目指すコア・チーム
  - 鈴木克明教授(日本のID第一人者)が指揮



- 全学協力体制による教員組織(IT・IP・IM)

- GP採択の成果を挙げたIT担当教員
- 実務経験豊富なIP及びIM担当教員



- 研究や実務の最先端で活躍する非常勤講師

- メディア教育開発センターの研究者
- 日本イーラーニングコンソシアムのメンバー
- 教育ビジネスで活躍する実務家



- 産業界との協力体制

- 日本イーラーニングコンソシアムの正会員(国立大学初)

- 関係機関との協力体制

- メディア教育開発センターと構想時から連携

研究・実務の最前線で活躍する講師陣が「eラーニング最前線」を教える

# コア・コンピテンシー



(必修科目の単位を取得することで身につく)

Kumamoto University

1. 教育・研修の現状を分析し、教授システム学の基礎的知見に照らし合わせて課題を抽出できる。
2. さまざまな分野・領域におけるさまざまな形のeラーニング成功事例や失敗事例を紹介・解説できる。
3. コース開発計画書を作成し、ステークホルダごとの着眼点に即した説得力ある提案を行うことができる。
4. LMSなどの機能を活かして効果・効率・魅力を兼ね備えた学習コンテンツが設計できる。
5. Webブラウザ上で実行可能なプログラミング言語による動的な教材のプロトタイプが開発できる。
6. 開発チームのリーダーとして、コース開発プロジェクトを遂行できる。
7. 実施したプロジェクトや開発したコースを評価し、改善のための知見をまとめることができる。
8. 人事戦略やマーケットニーズに基づいて教育サービス・教育ビジネスの戦略を提案できる。
9. ネットワーク利用に関わる法律的・倫理的な問題を認識し、解決できる。
10. 教授システム学の最新動向を把握し、専門家としての業務に応用できる。
11. 実践から得られた成果を学会や業界団体等を通じて普及し、社会に貢献できる。
12. 教授システム学専攻の同窓生として、専門性を生かして専攻の発展・向上に寄与できる。

基礎であるベーシック＋実務で活躍するLDをカバー

# オプション・コンピテンシー

(選択科目の単位を取得することで身につく)



Kumamoto University

1. eラーニングサーバの導入、構築、管理、運営が行え、サーバサイドアプリケーションを用いた動的な教材のプロトタイプが開発できる。
2. コンテンツの標準化や相互運用性の要件を満たしたeラーニングコース開発やシステム運用ができる。
3. ネットワークセキュリティ上、安全なeラーニング環境を構築できる。
4. 知識・情報・学習の視点から経営課題について提言ができる。
5. eラーニングの特定応用分野について、その領域独自の特徴を踏まえて内容の専門家と協議できる。
6. コンサルティングの視点から、教育サービス・教育ビジネスのプロジェクト内容を提案でき、その実施をサポートできる。
7. 所属機関・顧客機関等のeラーニングポリシーの確立・改善・変革を提案できる。

このコンピテンシー制定に際してもeLPコンピテンシーを参照

# シラバスガイドライン (科目設計共通要件)



Kumamoto University

## シラバスガイドライン(概要)

- 15回の双方向性を持った学習記録を残すように仕組む(例: 小テスト、クイズ、小レポート、練習問題への回答)
- 成績評価は**複数のレポート・作品** + 学習記録(15回分)を組み合わせて認定する
- **レポート・作品はコンピテンシーと直結させる**
- 学習記録(15回分)の $\times$ 切は毎週設定せずに、数回分まとめて学習を可能にする
- 日時を指定した同期型の一斉指導は半期で2回程度までに限定する(残りは非同期、または同期型の個別指導)
- レポート・作品(または学習記録)に**受講者相互の評価(改善への意見を含む)活動**を取り入れる(仮提出→相互コメント→修正・本提出の基本的な流れ)
- 複数の課題ごと(15回の学習ごと)に科目担当者によるイントロビデオを作成する(顔を見せて動機づけをする目的に限定した短編とし、情報提供は書面を基本とする)

The screenshot shows a web browser window displaying a syllabus page. The browser's address bar shows the URL: http://www.esis.kumamoto-u.ac.jp/curriculum/01/syllabus\_01.h. The page title is '教授システム学専攻 熊本大学大学院 社会文化科学研究科'. The main content area is titled '科目 (シラバス) Curriculum (Syllabus)' and includes a sub-header '「4つの」を柱とした体系的・実践的な科目群'. Below this, there is a table with the following content:

e-Learning 概論 シラバス		単位数 2
担当教員: 録本 寛明	必修/選択	必修
1期	●	任意のeラーニング事例を取り上げ、指定された分析の観点から事例の分析・課題の改善点を提案できるようにすることを目指す科目。学習心理学、認知科学、成人学、管理論などの知識や、社会人教育・高等教育におけるeラーニングを実現するために必要な着眼点を養う。
2期		
3期		
前課科目	なし	
評価の方法	次の課題についての思惟点を以て評価する。ただし、すべての課題が合格点に達していることを単位取得条件とする。 目標値1)eラーニング(体験報告書(2点)) 自分がこれまで学習者として体験したeラーニングについて1つ取り上げ、その課題と印象を報告する。アップロードした報告書について相互にコメントをつける。 目標値2)テスト(読解(44点:4点×11回分)) テキストの各章末問題への回答(おれがきへの感想を含む)を8回分記載せよ。受講生相互の書き込みが対してレスをつける。	

実務家養成をシラバスレベルから意識し組織的に実現



# 成績の共通評価基準 (単位認定条件)

## ● 共通評価基準1

**15回の授業全ての「タスク」提出**  
「タスク」: 学生・教員間の双方向のやりとり(小テスト・小レポート等の提出・指導や学生間の相互コメント等)を証明・記録

## ● 共通評価基準2

**「課題」の全てが合格点(6割以上)**

「課題」: 複数回の授業によって構成される**学習ブロックごと**に「課題」の提出を課し、その内容は、**コンピテンシーに直結した修得状況確認のレポート**等

## 評価基準個別例

(インストラクショナルデザイン I)

次の課題についての累積点数で評価する。ただし、すべての課題が合格点に達していることを単位取得条件とする。加えて、用語等に関する小テスト(1,2,3,4,6,7,8,11,12回で実施 合計9回)を完了していることをも単位取得条件とする。

Webサイトに公開

[課題1] 教材企画書 (20点)

教材設計マニュアルP.164の「教材企画書の書き方」に沿って作成されていること。

[課題2] 教材パッケージ (20点)

教材設計マニュアルP.168の「7つ道具チェックリスト」の総合評価で「1. すぐに形成的評価を実施できる状態」であること。

[課題3] 教材作成報告書 (30点)

教材設計マニュアルP.170の「教材改善のための書き方」に沿って作成されていること。

[課題4] 相互評価レポート (30点: 10点×3)

上記課題に関し、他の受講者の課題を評価し、その評価が妥当であること。

各科目においてコンピテンシーが充足されているかを評価・確認

# レビュー会と科目開発プロセス (内蔵型FD)



Kumamoto University

- コンピテンシーに基づくシステムティックな教育設計とウェブ公開  
(<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/outline/>)
- 授業担当教員等が一堂に会するワークショップを重ね検討

## 検討過程の記録 (Wiki)

コンピテンシー - PukiWiki - Mozilla Firefox

GSIS学習サイト  
使用検討ミーティング  
(1/31/2006 センター長室)  
2006-02-03  
インストラクショナル・デザイン106

### コアコンピテンシー (旧版からの変化・背景など) †

番号	コンピテンシー	メモ
1	教育・研修の現状を分析し、教授システム学の基礎的知見に照らし合わせて課題を抽出できる。	旧版6番と旧版8番を合体。大森先生のご提案を受けて、筆頭項目に移動。「改善案の提案」は控えて「課題の抽出」に限定。「最新動向」は新10番に親して、ここでは「基礎的知見」に照らすことに限定。目利きを育てる観点から、『eラーニング基礎論』レベルを想定。
2	さまざまな分野・領域におけるさまざまな形のeラーニング成功事例や失敗事例を紹介・解説できる。	「さまざまな形式」を「さまざまな形」に変更。旧版にはないものを新規に追加。事例を語れることは本専攻での重要な学習成果であるとの観点から、成功事例と失敗事例の両方を、紹介するだけでなく成功・失敗の要因などを解説できることに言及。「さまざまな分野・領域」ももう少し限定的に「高等教育や企業内教育など」における」と書く方が良いかもしれないが、ここでいままやかして記載。「さまざまな形式」には、広義のeラーニング(EPSS・KMSなど)を含むことを想定。『遠隔教育実践論』や『教育ビジネス経営論』で主として扱う。
3	コース開発計画書を作成し、ステークホルダごとの着眼点に即した説得力ある提案を行うこと	「着眼点に応じた」を「着眼点に即した」に変更。「関心事に応じた」が候補としてあった。旧版2番。ここでは、コース開発計画書は一種類作成し、それをプレゼンテーションする相手(ステークホルダごとの)興味・関心に応じて必要な項目を選んで(強調して)、提案することを想定。『ID-2』や『教育ビジネス経営論』で扱い、演習科目で仕上げる。

完了

教育の質を保証するためのたゆまぬ取り組み



# 専攻ポータル ポートフォリオ (コア/オプション・コンピテンシー)

◆ コア ◆  
必修科目の単位を取得することで身につくコンピテンシー

科目内の学習課題

1.	教育・研修の現状を分析し、教授システム学の基礎的知見に照らし合わせて課題を抽出できる。	e-概論 ID-I 基盤教 基盤教 遠隔教 情報技 教育心 リテラー
2.	さまざまな分野・領域におけるさまざまな形のeラーニング成功事例や失敗事例を紹介・解説できる。	e-概論 ID-II 基盤教 遠隔教 演習I 情報技 教育心 外国語
3.	コース開発計画書を作成し、ステークホルダごとの着眼点に即した説得力ある提案を行うことができる。	ID-I ID-II 演習I 職業人
4.	LMSなどの機能を活かして効果・効率・魅力を兼ね備えた学習コンテンツが設計できる。	ID-I 学習支 演習I 演習I リテラー
5.	Webブラウザ上で実行可能なプログラミング言語による動的な教材のプロトタイプが開発できる。	学習支 基盤情 演習I
6.	開発チームのリーダーとして、コース開発プロジェクトを遂行できる。	演習II 演習II
7.	実施したプロジェクトや開発したコースを評価し、改善のための知見をまとめることができる。	ID-I ID-II 演習I 演習II 演習II 外国語
8.	人事戦略やマーケットニーズに基づいて教育サービス・教育ビジネスの戦略を提案できる。	教育ビ 教育ビ 職業人 職業人
9.	ネットワーク利用に関わる法律的・倫理的な問題を認識し、解決できる。	知的財 知的財 演習I
10.	教授システム学の最新動向を把握し、専門家としての業務に応用できる。	基盤教 研究II
11.	実践から得られた成果を学会や業界団体等を通じて普及し、社会に貢献できる。	研究I 研究II
12.	教授システム学専攻の同窓生として、専門性を生かして専攻の発展・向上に寄与できる。	基盤教 研究II

## コンピテンシー修得状況 確認機能

必修科目(コア)、選択科目  
(オプション)全てについて

- 各科目の課題とコンピテンシーとの関係
- 提出状況
- 採点状況
- 前提条件クリア
- 科目/タスク/課題  
ページへのショートカット

受講者もコンピテンシーを意識

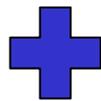
# 本専攻のカリキュラムとeLP資格



Kumamoto University

本専攻のカリキュラム・教育内容は下記認定を頂くに足るものです

修士課程 修了→ベーシック・LDを認定  
(必修科目のみで認定)



所定の選択科目の単位を取得  
↓  
MG、EX、CO、CC、SCの認定

教育の質を組織的に保証

# 修士(博士前期)課程入試



Kumamoto University

- 募集定員
  - 15名
- 出願期間
  - 平成20年 1月9日(水)～平成20年 1月15日(火)
- 試験日
  - 熊本会場:平成20年 2月15日(金)・2月16日(土)
  - 東京会場:平成20年 2月16日(土)・2月17日(日)

科目等履修生も募集 博士後期課程も新設！  
本専攻についての詳細は「教授システム学」で検索を！